

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第6回）「キャリア教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年10月19日(月) 午後3時30分～午後5時00分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	廣嶋憲一郎、小野雅保、石井友行、安井実、根本裕美、飯塚剛、野田恵威子、望月徳生、高橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	芝田智昭 指導主事

### 1 はじめに

#### アドバイザー

石井校長先生には何度もたたき台をつくり直していただき、本当に感謝している。今日も充実した話ができるのではないかと楽しみにしている。

#### 事務局

まず、資料の説明（「練馬区小中一貫教育資料作成委員会報告（10月19日）」）。今日、この推進委員会が開催されており、そのときの配布資料。委員会の答申を簡潔にまとめたものと、各部会の概要を端的にまとめたもの。本部会が提唱している学習期ごとの子供像の標語についても、各部会に私から提案して、そろえられるところはそろえようという話になっている。A3判のものは、協議の進行に合わせてご覧いただきたい。ほかに「小中一貫教育校だより」第3号。あと「キャリア教育推進部会 協議資料」の写し（9月15日のもの）と、石井先生に修正いただいたA3判の実践プラン。そして、小野先生から資料。

### 2 協議

#### 部長

キャリア教育の実践プランの右側にある全学習期を通じて学習する内容の4つの柱で、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を高める学習の中の項目として、自他の理解・コミュニケーション等がある。左側のⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期、そして「自分大好き・好きなことを見つけよう」とか「夢から希望へ」「希望の実現に向けて」というのは、ある種キャリア教育の中で育成すべき内容であり、キーワードとして入れている。この4つの能力観が同時進行で同じ価値観としてずっといくのか、あるいは練馬の子供たちにとってここが大事というのがあり、4つが常に同じ価値観ではないのか。文部科学省のキャリア教育の平成18年11月の資料、その中から抜粋したキャリア発達にかかわる諸能力というページ。その前段に、国立教育政策研究所の生徒指導研究センターで、4つの能力を例示として提案した。手引きの50～51ページに、その能力は特別活動と道徳との関係があって、指導要領の中に書かれている指導項目等のところに関連が強い。私たちにとって指導要領は身近な存在で、50ページの「望ましい職業観・勤労観の形成」「主体的な進路の選択」とか、51ページの道徳のかかわりでも少し指導要領の内容が出ている。また、指導要領の学級活動のところ、見開きで小中の特別活動が出ている。小学校のほうには、「日常の生活や学習への適応及び健康安全」のところ「希

望や目標をもって生きる態度の形成」とあり、「希望」とか「目標」とかのキーワードがある。3つ目の「望ましい人間関係の形成」もわかる内容。中学校のほうには「学業と進路」という項目立てが出ていて、そこには「学ぶことと働くことの意義の理解」、3番目の「進路適正の吟味」とか「進路情報の活用」、「望ましい勤労観・職業観の形成」。最後に「主体的な進路の選択と将来設計」というキーワード。僕らにとって中学校の学習指導要領の特別活動の大項目であれば入りやすい。小学校の場合も希望や目標であれば、共通項目の学級活動あたりならわりと近い。裏面は道徳の資料で、下のほうに\*印をつけたのが意義。中学校に入ると、勤労の尊さとか意義とか奉仕の精神。この4つの能力は裏側にある小学校と中学校例の54、55ページ。ここでいい言葉は、「発達課題」という言葉。全学習を通じて学習する内容は、発達課題的な内容がここに入って、それを達成するために諸能力としてこういうものが必要だとなる。要するに、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期に求められる子供像に到達するための課題が出る感じ。指導要領の項目で、ある程度咀嚼しやすい言葉に言い換えて、それで人間関係形成能力として練馬区のこの研究、この内容でやっているということも考える必要がある。

#### 委員

表の一番右側に対する問題。ただし、文科省の指導要領には、小学校には人間関係の形成という言葉も見られるし、中学校には情報の活用とか将来設計という言葉も見られる。もう少し整理したほうがいい。あるいは、私たちがなじみ深い言葉に変えたほうがいいのではないかな。4本の柱は絶対的なものだと思っていたが、国立教育政策研究所の例示でこの4つが出ているという判断はどうか。石井先生の表全体から見直す方向がよさそう。

#### 委員

まず、右側の欄の人間形成のところを①、情報活用のところを②、隣の将来設計が③、意思決定が④とつけていただきたい。一番左側のⅠ期の①～④までを含めた児童像。その順番を整理した。Ⅰ期の一番上の「学校生活の適応」は①、「友達とのかかわり」が①、「身の回りの事象への関心」が②、「自分の持ち味を發揮し、役割の自覚」が③、「自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する」が④と考えた。第Ⅱ期、「自他の違いを尊重」が①、「いろいろな職業があることがわかる」が②、「役立つ喜びを体得」が③。その次は削除でお願いしたい。最後の「社会と自己のかかわりから、自らの将来について」は③。Ⅱ期は、④がない。Ⅲ期、「積極的によりよい人間関係を築く」が①、「自らの希望達成のための問題に直面し将来設計」が③、「社会の一員としての自覚を高め、義務と責任を果たす」が④と考えた。前回と違うところは道徳も含めた形で入れた。今の①、②は、私なりにふってみたが、意思決定能力を高めるところが見つからない。「お・あ・し・す」は①。「うかんだ、うかんだ」道徳、「1/2成人式」は③。「長所を伸ばす」は①、「中学校ってどんなところ」、「部活体験」は③。「リトルティーチャー」は①。「地域に貢献する」は④と考えた。その隣「進路選択」は③。そして、望ましい勤労観・職業観のところ。「がっこうだいすき」「この町大好き」「牧場体験」は②と考えた。「幸せを送るリーダーに」は③、「私の未来設計図」、「働くことの意義」、「働く人から学ぶ」、「職業体験」は②。特別支援はまだ検討していない。特別活動の中の目標について、学級活動や児童会活動にしても、課題選択、課題解決の活動はたくさんあるが、それを入れるとキャリア教育としてはすごく広くなってしまうので、どこで絞るかという迷いがある。

補足で、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の児童像について説明したが、Ⅱ期は④がなかったり、Ⅲ期には②が欠けている。これも共通認識しておく必要がある。

#### 委員

一つの体験が番号一つとは限らない。①と④でもいいと思う。

#### 委員

例えば「がっこうだいすき」なども自分を理解し、コミュニケーションを広げる中で情報収集というので、①と②両方入る。同じように「この町大好き」も他者の多様な個性を理解してというところで、その中から町の人とのコミュニケーションへと広がって、町の情報収集となる。道徳のような短い単元はパキッと分けられるが、中段の「私の未来設計図」は30時間のものなので、細かい要素で見えていくと①、②、③、④の要素は皆入ってくる部分がある。

#### 委員

広い意味で、自己肯定感とか望ましい勤労観のところも、番号を一つに固定しないほうがいいのか。表面的に出したほうがいいものもあれば、いろいろ加味しているものもある。

#### 委員

もう一つ、Ⅱ期を見ると「夢から希望へ」になっている。夢はすごく漠然としているが、希望となるとその子なりの道筋とか、進むべきポイント。「未来設計図」をやったとき、「今の自分はこう。でも、10年後の自分はこうあるために、何かしよう」とか決めた子もいたので、何かの道筋が見えていると思う。これは③にとどまらずに④まで。例えば「自ら意思決定にともなう責任を受け入れる」の「希望をふくらませる」で終わらずに、「希望をふくらませ、何々する」と入れると、④に入るのではないか。

#### 事務局

やはり学習にはさまざまな要素が入っているので、①～④の一つで括ろうとすると、もったいない。それ以外の要素も入っているので、無理に括る必要はない。あと、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の児童像だが、①～④と関連させることも必要かもしれないが、児童像というのはこういう子供になってほしい、こういう子供を育てたいという目的が書いてある。一番右側の全学習期を通じて学習する内容は、目的ではなく方法という捉え方もできる。9年間、こういう視点から学習を進めることを通して、それぞれの期の目指す児童像に迫るという考え方もできる。目的と方法では質が違うから、すぐに①と1を対応させるのも難しいと感じた。

#### 委員

当然それはある。一応一番関連が深いのはこれかということ。

#### 委員

最終的にこれを評価することを考えると、教師側が子供を評価してあげることもあるし、子供たち自体が自己評価するにあたって、一つの項目にいろいろな要素が入っていると、評価後

の次の対策を立てるときに迷いが出る可能性がある。やはり1項目に対して一つの課題のほうがいい。例えば「お・あ・し・す」は、①の人間形成、「うかんだ、うかんだ」は③の将来設計でいい。各Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期については、それぞれ①～④の要素が必ず入ったほうがいい。小野先生の資料に、①～④の要素、柱については4ページに例示で載っている。A3判にそれぞれの項目で入っているの、足りない部分は引用して、1項目一つで評価していく。または、チェックリストみたいな形で、子供たちもチェックしやすいものになっていけばいい。

#### 委員

番号についてはもう少しA3判と見合わせる時間があれば。路線が確定できたら、そこはもう少し煮詰めてもいい。

#### 委員

望月先生の発想だと、こういった番号づけをある程度意識するのが必要。Ⅰ期であれば、項目の4番、何かつくったほうがいいのではないか。Ⅱ期では、子供像の目的に相当するものの④、あるいはその実践例、指導項目といった④が必要、Ⅲ期では②の文言も必要ではないか。

#### 委員

中学校の特活の指導要領、この内容と人間関係、情報活用、将来設計、意思決定がそれぞれの内容のどこに対応するのか。9年かけてこの内容の(1)(2)(3)ができればいい。例えば、内容(1)学級や学校の生活づくり。これは諸問題の解決だから④意思決定。それから(2)は、①人間関係の形成。(3)に学業と進路があって、これが②と③を構成していると読んだ。

話が戻るが、例えば話し合い活動で議題を見つけて解決して、学級生活の向上に結びつけるところをキャリア教育の実践プランとして入れると、どこまでその野が広がるのか。どこで枠をはめるかという議論、先行研究として文科省でこのキャリア教育のものが出ているから、これをベースにという前提はすごくいい。

#### 委員

石井先生の国立教育政策研究所をたたき台にして、4本の柱をひらいたときに、例えば①人間関係形成能力を高める学習を「望ましい人間関係を育む」とする。②に情報活用能力とあるが「必要な情報を選択して活用する」とか。③の将来設計能力も、「夢や希望を持って、生きる態度を養う」とか。意思決定能力も「よりよい選択をして、主体的に解決を目指す」とか。ある程度狭まるけれど、日常用語で①は「学校生活に適應する」とか「友達のかかわり」、Ⅱ期の「自他の違いを尊重する」とすると、わかりやすさが出る。何か「自分大好き・好きなこと」等に似た言葉をここに添えると、橋渡しができる気がした。ある程度誰が読んでも、誰が解釈しても一定の許容範囲に入るような4本柱であれば、こちらの一番右側のⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期にも妥当できるのではないか。

#### 委員

これをベースにしているとしたら、例えば人間関係能力を高める学習の矢印の下に、ひらいた言葉を吟味して入れる。これについて、練馬区はこのように解釈しますと。

#### 委員

当初これは前のほうにあって後ろに持ってきたが、言葉に対して説明すると、これは大きな柱なので、一番左に近いところであって、その言葉を次に説明することで重視する指導項目が入ったほうが、表としては見やすい。

#### 事務局

左側にくればわかりやすくなるかもしれないが、全学習期を通じて学習する内容で、この4本を置くというのが前回の話。その方向で表を完成に近づけたい。このフォーマットは、ほかの分科会とある程度共通でいく。

#### 委員

右側の全学習期を通じて学習する内容という言葉と、4本の柱が自分の中にストンと落ちない。それが学習内容という形で括るべきものなのか。どういう形で一覧表にすればいいのか。一点と、実践プランをどういう形で練馬区として提示するのか。4つの全学習期を通じて学習する内容は皆で共通理解して、「例えば、こういうようなものがある。これを参考に各学校の特色に応じてやっていきましょう」ということだったと思っている。そうすると、これがすべてを網羅している必要もない。この位置づけをどういう形でやるのかは、もう1回きちんと前提となる考え方をお伝えしてから、各学校へ発信していくことが必要。だから、右側の学習内容とそれぞれ出ている道徳の部分と、総合や特活、いろいろなものがすべて網羅されて、一つひとつが単独で独立した学習内容でなくてもいいのかと思った。

#### 部長

道徳や各教科は内容項目があり、「〇〇について学習する」とある。特別活動は、活動を通してとか意義の理解とか、活用とか提示。これは活動を行うことが大前提だから、一番右側の全学習期を通して学習する半分以上は、集団活動として学習活動になるのではないか。そこで特別活動の立ち位置が違ってくる。

#### 委員

ただ、ここに入っている例示は、小学校でいえば学級活動の内容(2)。(2)は、例示として内容が明確に出ている。だから、それを受けての内容だと思う。活動を通してというのは(1)のほうで、話し合い活動とか、そういう議題を見つけて集団で解決していく、学級生活の向上につなげる。そういう活動として実践的態度を育てていくところ。(2)で考えれば、中学で(2)と(3)。そういうことでいえば、内容として出してもそれほど問題はないと思う。

#### 委員

特別活動は活動そのものに意義があり、例えば総合とか道徳も含めると活動そのものよりも、中身が特に意義があるから、内容という言葉に小野先生は抵抗を感じたと。特別活動が中心だと、一番右の項目は活動そのものに意義がある。ところが、総合とか道徳だというと、その中からさらに課題解決とか徳目を学んでいくような内容になるという視点。

## 部長

ただ、これに出ている学習指導要領の文末を見ると、道徳は「活動を行うこと」という言い方はしない。そこは、道徳と特別活動の非常に大きな違い。特別活動の場合は、目標のあとの内容は内容だけれど、当面する何かに対して、「態度の育成に資する活動を行うこと」と。

## 事務局

学習する内容がしっくりこないのであれば、少し預からせてもらって、ほかの部会と整合をとる。「学習すること」にしてしまうとか。それから、学級活動とか道徳という話も出ているが、結局キャリア教育は時間割表にはない。時間割にあるものの中でこういう力をつけていきたい。やはり、学級活動とあったら学級活動のねらいがあって、評価がある。道徳も同じ。そのねらいの方向性の中で、キャリア教育のねらいも、いかに達成していくかというすり合わせの話。だから、現段階で整理していく指導項目は、あくまでも間借りをした学級活動、道徳の中で、キャリア教育としてどんな指導を重視するのかという整理の仕方をしているので、ある程度の完成度合いはあるのではないかな。

## 委員

ある程度この委員会としての実践プランを提示する。やはりそれぞれの活動に「こういった役割を最低限度持たせてください」という方向性を出す必要があるのではないかな。一方、「それ以外にもできるじゃないか」と言われれば、「それはもちろん」と。そうしたものを扱うことによって、4つの柱を網羅できるスタンスがいいのでは。もう一つは、望ましい子供像があり、また「全学習期を通じて学習すること」にしる、あるいは「発達課題」ということにしる、表現力の育成の分科会では「実態」という言葉が出てくる。その実態を踏まえた課題が、練馬区版としてどうなるのか。時間割の中にはないが、キャリア教育を通じた子供たちの特徴、実態に対して、こうした課題を捉えていこうという、一つの提案形式を盛り込むこともできるのでは。最後に、実践プランで自分自身を理解し、育てていって、他者とのかかわり合いを持っていく。そう考えたときに、いろいろな活動が自分一人でもできるものとできないものに大きく分かれる。そうした区分けも工夫して載せられるといいのでは。キャリアという意味づけもその中に出てくる。

あくまで、例示の意味合いで番号があったほうがいい。それをポイントに置いて活動・指導したときに、少なくともこういう形にまとまる、子供たちの像に近づくという一つの例示。

## 委員

飯塚先生も、それはあったほうがいいのではないかなということ。

## アドバイザー

例えば職場体験の事例を紹介するときに、これにもとづいてピックアップして紹介する。職場体験の事例の中では②情報活用能力を高める。つまり、情報活用能力は、子供たちに色濃く身につくかもしれないが、ほかのものはそんなに注目しなくていいという発想になるか？要するに上から考えるか、事例から考えるか。私は事例から考えている。一つの事例に4つすべて

入ることはないかもしれないが、かなり複数の能力がある。育成すべき能力なので、きれいに分けられるものではない。町田市で同じキャリアプランをやってきたときに、やはりどの事例にも4つの目標があってほしいと検討したが、結論的にはパンクした。実践事例の中の熟語は撤退させ、一覧表の中に残した。ただこれから事例を落とすときに、目標を書かなくてはだめ。書くときに、この4つを意識して書く。参考にはするけれども、この言葉は前面に出さない。問われたときにこの4つの中のどれか、あるいはその中のいくつかが最終的に能力育成できるような目標としてあるとわかるようにつくったらどうか。事例によっては、目標を書いて最後に言葉を書く。「何々することができるようにする（情報活用能力・何とか能力）」と。

今の議論は棚上げして、次の段階を検討したほうがいい。今度事例を各先生が書くときに、どこか一つに絞れるか。絞れたら番号をつけてもいい。絞れなかったら、番号をつけないほうがいいとなる。もう一つ、もう少しひらいた言葉で4つの言葉を説明できないかという提案。これは、練馬区はすべて文科省や都教委に右に習えではない、検討委員会として十分やったという証として、それをそっくり置き換えてみていい。石井先生が言った矢印の下のところをひらいた言葉にしておくと、今度事例を書くときに「この事例のねらい」とかぶってくる可能性がある。ひらいた言葉がフィットすれば、提案されたことが生きるかもしれない。今日は出てこなかった、特別支援活動はこの枠組みの中では番号をつけられない。だから、番号をつけるのは結構きついのではないか。それから、先ほど学習する「内容」ではなくて「こと」のほうがいいということと同じように、「重視する指導事項」も（案）とか、（例）にしておかないと、これからもまだ開発していく余地がある。同じように、「職業や勤労観」のほうも将来的にはこれはさらに埋まるという含みを残しておく。今回紹介する中で12個くらい、特別支援を入れると、15個くらい事例がある。その中から紹介できるのは、6個しかない。これが来年にもまたがって埋まって、紹介する事例もさらに増えて完成版になる。だから、今年ガチッと固めず、例とか案とか、直せる余地を残しながら、事例の検討に入った方が生産的かと思う。

#### 委員

事例の中で番号をつける方向を模索しながらということ。それから、右側のほうのひらいた言葉で、小野先生がつくったものをとりあえず1回置く。それから、項目に関しては（案）または（例）どちらかにする。分担のほうの6ページ分の岡本先生、根本先生だけ先に。

#### 事務局

では、中間報告書に掲載する実践事例ということで、内容、様式についてはご覧のとおり。分担は全6ページで、それぞれの事例をこのような方々にお願いしたい。構成のところ、事例名はここにあるような「幸せを送るリーダーに」等が入る。次のカッコには総合的な学習の時間、道徳、学級活動を入れていただきたい。実施学年・指導時数は書いてあるとおり。③のねらいは、時間割にある教科・領域を使うので、やはり道徳であれば道徳らしいねらい、学級活動であれば実践的な活動を促進するとか、その領域なりのねらいが入る。④で本事例とキャリア教育との関連という項目を立ててあるが、その中でキャリア教育のこういう面を重視したいというねらいも加味しながら指導したい。⑤の概要に載せるのは単元の指導計画や、本時の計画、子供たちの資料、写真等も入れていきたい。これがA4・1ページの構成案。それぞれの事例のどれを選択するのだが、小学校はⅠ期から1本、Ⅱ期から1本。中学校はⅡ期から1本、

Ⅲ期から1本。特別支援学級は、小1本、中1本になるか。なるべく内容的な重複も避けた形だとありがたいが、中学校事例がやはり職場体験になるので、ここが少し難しい。

**委員**

小学校は選択肢が非常に多いので、重複する項目は二人の調整。飯塚先生はキッズニア体験関係のところ大きい気がする。問題は中学校側で「職場体験」「職場訪問」「リトルティーチャー」は上石神井。上級学校訪問か。Ⅲ期のところに②の項目がない、望ましい子供像の目的がないと言っていたが、考えたのは上級学校の種類や特徴、必要な職業の資格といった目標がある気がしているので、そのへんができるかと。

**委員**

「職場」にしても「文化発表」にしても、共存の部分で一つ事例を持っていくか。それとも「日常生活の指導」「自立活動」を揺さぶるものにしてもいいかと思う。

**委員**

「自立活動」となると、項目そのものの内容が変わってくると思うが、大丈夫か。

**委員**

「日常生活」「自立活動」でつくろうと思えば、つくれる。

**委員**

中学校はⅡ期とⅢ期で1本ずつというのも、野田先生と高橋先生で調整し合うことになる。

**委員**

「部活体験」。それから中学生になったところで「自分の姿はこうになりましたよというのを、小学生に報告しましょう」というのを今やっている。自分たち1年生自慢、学校自慢みたいところを少しやっているところはある。

**事務局**

小学校から見た中学校、中学校から見た小学校に、こういうふうになってもらいたいとか。

**委員**

そうすると、高橋先生が③に相当する内容を中心に事例を挙げていただけると、野田先生が心おきなくⅢ期の②で…。

**委員**

私も今1年生なので情報活用能力を高めるといっているので、働く人たちをたくさん呼んでブースをつくって、子供たちが皆でインタビューしたのをやったばかり。というのをやった。

委員

それは、情報活用能力か？ 将来設計能力じゃないか。

委員

いえ、情報を収集して、働く人たちを理解するみたいな感じ。でも、先程の方がおもしろいと思うので、私がⅢ期の何かを探す。

委員

高橋先生、縦に長いのをメモでいいから、つくったら大泉へ送ってほしい。

委員

ただ今年はそういう実践をしているが、実態として小5、6は、もう小中一貫校のときには中学校の教室へ来てしまう。だから5、6年でやっても、中学生の中で日常的に生活している。はたして意味あることなのか。中学校のほうで、5、6年については教科についても教科担任制で教えていくとか、だいた骨子が固まってきている。それが、ほかの連携校であるならば十分生きると思うが。そうすると1でⅠ期まで入ってしまうかと。中学生でその頃というのは、見てのとおりのところとなってしまふ。部活も5年生からは、一緒にやってしまう。

アドバイザー

とりあえず、書きぶりをどうするかの問題だけれど、それはほしい。一貫校でどういうふうにするかはまた課題はあるが、やはり一貫校を開設してもすぐにうまくいかないのではないかなという感じがする。そういうのが参考になる。

委員

先行事例的な感じで、ぜひ学校自慢でいい。

アドバイザー

要するに、私たちがやっていることは小中一貫教育をどうするかという観点でのキャリア教育。そのしぼりを考えると、その事例は実にいい。岡本先生が「道徳でⅡ期やる」と言っていた。

委員

職業体験とか、職業とか町とか人の仕事につながるなら、「この町大好き」で書いてくる。

委員

この中の「働くってなあに」につなげて、そこのところになると思う。

アドバイザー

野田先生も同じで、それで1枚目が番号を分けられるかどうか。結局、事例のねらいは、書かないといけない。そのねらいに四つの能力が複数出るとか、1本に絞れるのか。1本に絞れ

れば、番号をつけてもいいと思う。もしも、複数のほうが出しやすいのであれば、あまりきちっと番号で区切らないほうがいい。

#### 委員

一応ヒントのために、右側の柱に相当する小野先生の提案の文言を書きとめておく。①が、「望ましい人間関係を育む」、②が「必要な情報を選択して活用する」。③が「夢や希望をもって、生きる態度を養う」。④が「よりよい選択をし、主体的に解決を目指す」。

#### アドバイザー

事例の中に、意思決定能力がピタッとしたのが出てこなかった。意思決定能力ってどの事例にでもあるのではないのか。

#### 委員

そう、ベース、これが同列ではないと思う。意思決定能力の上にこの3本の柱がある。

#### アドバイザー

小学校低学年が、低学年なりの意思決定能力。その主体的な判断とかが、すでに特活などの専売特許。そう考えてみれば特活のねらいになるから、キャリア教育＝特活という要素が強い。総合にしても生活にしても、主体的というのは教科のキーワードになるし、どの教科にも意思決定は入る気もする。道徳は最後に意思決定させる。資料や読み物を読んで「はい。わかりました。終わり」ではない。やはり意思決定させないと、道徳的实践力までいかない。

#### 委員

実践力に結び付けていかないと、いけない。子供に迫らないとだめ。

#### アドバイザー

ただ、言いきれない。だから、私は番号に絞れないのではないかという気はする。それぞれの事例のねらいを書くときに、それを考えて書いてほしい。

#### 委員

疑問に思ったことを一つ。道徳の指導項目の番号を見た瞬間、ピンとこなかった。中学校は道徳の指導項目は23項目から24項目に増えて1－(6)はない。「小学校にある」と伺った。それで、小学校は低、中、高学年とそれぞれの番号が違うのか。私は中学校と同じでどの学年にも、4番で(10)までであると思っていた。もし、意思決定能力の④が足りないのであれば、それぞれの項目に中学校では4－(5)に相当し、小学校では(2)に相当する、4－(2)、4－(5)、というような事例を1個でも入れれば、道徳4で柱が立っていくと感じた。事例が足りない、④がないというのであれば、そのへんが入ってくればいける。

#### 部長

4－(2)(2)(4)(5)の、4つの働くことのところ。どこか入れたいというのはある。

**委員**

ただ、今の事例では1-(2)であったり、1の自分に返ってくるところの道德の事例。だから、もう少し4に相当するものを入れたらいいか。

**部長**

「望ましい勤労観・職業観を育む」と出ている、「自己肯定感・自立心を育む」と2本柱になっている。やはり勤労観・職業観を育む道德教育の中身となると、どこかで出てもいい。

**委員**

スペースがないのなら、入れた例を模索して書いてもいいのか。たぶん、岡本先生は「長所を伸ばす」あたりを中心に書くか、あるいは「幸せを送るリーダーに」どちらか。4-(1)のほうがいい。では、実践プランに戻る。左のほうでⅡ期の④やⅢ期の②に相当する文言が足りないかもしれないという課題はどうするか。先ほど石井先生が番号をつけてくれたほうでは、Ⅱ期の④に相当する言葉がない。

**委員**

では、私がたたき台をまた次回入れておく。

**委員**

自分一人のできるものと、他者とのかわりの中でできるものの区分け？

**委員**

それを考えたけれども、学年が進むにつれてそういう傾向になるといえばそうでもないし、もし、何かいいアイデアがあったら教えていただきたい。

**事務局**

次回、11月9日に事例を持ってきてもらい、一緒に全体像も検討したい。